

めぶきニューヨークレポート

MEBUKI NEW YORK REPORT

2021年9月号

- ◇ 【調査レポート】米国勢調査に見る米国の人口動態の変化・・・・・・・・・・ P. 1
- ◇ 【NYライフ】デラウェア川でラフティング・・・・・・・・・・ P. 3
- ◇ 【ニュース一覧】・・・・・・・・・・ P. 4

常陽銀行ニューヨーク駐在員事務所
712 Fifth Avenue 8th FL
TEL : +1-347-686-8420
E-mail : newyork@joyobank.co.jp

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願い致します。

発行元：常陽銀行市場国際部



一 米国勢調査に見る米国の人口動態の変化 一

今回は 8 月 12 日に米国勢調査局から発表された 2020 年国勢調査の結果についてレポート致します。

1. 米国勢調査とは

米合衆国憲法に基づき、米国商務省国勢調査局が 10 年ごとに実施する国勢調査であり、西暦の末尾が 0 の年に実施されます。24 回目となる直近の調査は、2020 年 4 月 1 日を基準日として実施されました。

国勢調査の結果は、単に米国の人口動態の詳細を示すだけではありません。国勢調査の結果は、各州への連邦下院議会の議員定数割り当てや各州内の選挙区割りに影響を及ぼすことから、今後の選挙結果を左右する意味でも非常に重要となります。

2. 国勢調査の内容

今回公表された国勢調査の内容について、様々な角度から見ていきます。

(1) 国全体の人口増加

2020 年 4 月 1 日現在、50 州にワシントン D.C.を加えた米国の居住者人口は、331,449,281 人であり、前回調査から 22,703,743 人 (7.4%) 増加しました。人口が減少している日本からすれば、この増加率は非常に高いといった印象を受けると思います。

年齢別に見てみると、18 歳以上の人口は 10.1%増加し、総人口の 77.9%を占めています。一方、18 歳未満の人口は 1.4%減少しています。

なお、米疾病対策センター (CDC) の下部組織である国立衛生統計センターによれば、2020 年の米国の出生率は 1.64 でした。これは 6 年連続の減少であり、過去最低の値となっています。

(2) 州ごとの人口増減

人口が最も多い州はカリフォルニア州 (約 3,954 万人)、人口が最も少ない州はワイオミング州 (約 58 万人) でした。ただ、10 年前との比較で、人口が最も増加したのはテキサス州 (約 400 万人増加) であり、人口増加率ではユタ州 (18.4%増加) がトップとなっています。

こうした州による人口増減は、州ごとの連邦下院議席数に影響を及ぼします (議席数合計 435)。今回の結果により、議員数に変更が生じた州は次頁の表の通りです。党別で見ると、共和党の州で合計 3 議席増加、民主党の州で合計 3 議席減少しています。

これは 2022 年の中間選挙や 2024 年の大統領選に影響を与えることとなります。今回の人口動態の変化が民主党、共和党どちらに有利に働くのかについては、米国の各メディア、専門家等の中で分析が行われています。

議席数増加の州	議席数減少の州
2 議席増加：1 州 テキサス州（共）	1 議席減少：7 州
1 議席増加：5 州 コロラド州（民）、フロリダ州（共）、モンタナ州（共）、ノースカロライナ州（共）、オレゴン州（民）	カリフォルニア州（民）、イリノイ州（民）、ミシガン州（民）、ニューヨーク州（民）、オハイオ州（共）、ペンシルベニア州（民）、ウエストバージニア州（共）
（民）2 議席増加、（共）5 議席増加	（民）5 議席減少、（共）2 議席減少

（注）表中の（民）（共）は、それぞれ民主党地盤の州、共和党地盤の州を示す。

（3）都市圏への集中

都市圏（都市・郊外地域）の人口の割合は 86%に達し、前回調査と比較し約 9%上昇しました。この増加はほぼ都市圏で起きているといわれています。

都市圏への人口集中がさらに進んでいる一方、地方では人口の伸びが鈍化しており、全米の約 52%の郡で人口が前回調査から減少しています。

（4）人種の多様化

もともと白人（ヒスパニックを除く）比率が高い米国ですが、今回の結果では人口に占める白人の比率が 57.8%となり、1790 年に国勢調査が開始されて以降、初めて前回調査を下回りました（2.6%減少）。一方では、ヒスパニック、アジア系、黒人の比率は前回調査から大きく増加（各々23.0%、35.5%、5.6%増加）しました。

別途、国勢調査局では人種や民族の多様性に関する分析結果もあわせて発表しています。独自に測定した指標によれば、ハワイ州、カリフォルニア州、ネバダ州の順でその数値が高く、またいずれも数値が前回調査から上昇しています。この数値は国全体でも上昇していることから、米国で混血と人種・民族の多様化が進行したことを示すものとなりました。

3. おわりに

今回の国勢調査が示したものは、以下に集約されるといえます。こうした傾向は当面続くものと想定されます。

- ・ 国全体として人口増加の一方、出生率低下による平均年齢の上昇
- ・ 都市圏への人口集中が続く一方、全体では北東部・中西部から南部へのシフト
- ・ 白人比率の低下と、国全体としての人種・民族の多様化の進行

世界第一位の GDP を誇る米国は、日本企業にとっての進出・輸出先等の相手国として極めて重要な国です。また、個人としても留学や観光地として魅力的な国の一つと言えるでしょう。

人口動態の変化が一国に及ぼす影響が少なからずあることは言うまでもありません。当事務所では今後ともこうした変化を注視して参ります。

【ニューヨーク駐在員事務所 飯塚 藤郎】

ー デラウェア川でラフティング ー

ラフティング（川下り）は、夏のニューヨークで人気のアクティビティの一つです。マンハッタンから2時間程の場所にいくつかラフティングができる川があり、今回はニューヨーク州とペンシルベニア州の境を流れるデラウェア川へ行ってきました。ゴムボートで川を下りながら、魚釣りや紅葉など春から秋にかけて大自然を楽しめますが、やはり暑い夏が一番ではないでしょうか。



当日は天気にも恵まれ、駐車場へ着くとすでに多くの人で賑わっていました。受付をした後、バスで出発地点まで送ってもらいます。そこで簡単な説明を受けてボートに乗り込み、いよいよ出発です。ゆったりとした川に見えたのですが、ボートで川に出してみると見た目より流れがあり、パドルで漕がなくても進んでいきます。左岸がニューヨーク州、右岸がペンシルベニア州です。静かな自然の中、水に浮かんでいるのはとても気持ち良く、リラックスできます。しかし、川底の形状の影響か、突然流れが速くなり波が出る場所があったり、流れが二手に分かれていてボートのコントロールをしないといけないかったり、橋の下をくぐったりと、3時間程のコースの中に様々な楽しみがありました。

途中自由に岸に上がることができるので、休憩して水遊びをすることもできます。また、多くの人が各自クーラーボックスを持って、ボートの上や岸でランチを食べたり、木陰で音楽を流してビールを飲んだりしながら、のんびりと1日を過ごしているようでした。カヌーや本格的なカヤックに乗っている人もいて、レベルや時間に合わせて種類やコースを選択できるので、色々な楽しみ方ができると思います。とても楽しかったので、この夏中にもう一度、今度はランチを持ってカヌーに乗りに行く予定です。



【ニューヨーク駐在員事務所 菱沼 いずみ】

ニュース一覧

(2021年7～8月のニュースを抜粋、日付は Bloomberg 掲載日であり、あくまで参考となります)

●政治

- ・ファウチ所長、(コロナは)良い状況にはならず、間違った方向に進んでいる(7/25)
- ・米中、首脳会談の可能性残す(7/26の米中次官級会談にて)
- ・バイデン大統領、各州・自治体あてワクチン接種者に\$100を支給するよう呼びかけ(7/29)
- ・米国、海外からの渡航者にワクチン接種義務化の公算(8/4)
- ・バイデン大統領、香港市民に米国滞在を許可(8/5)
- ・ニューヨーク州のクオモ知事が辞意表明(8/10)
- ・米政府、OPEC プラスに増産要請へ(8/11)
- ・米交通機関のマスク着用義務を来年1月18日まで延長(8/17)
- ・米政権、ファイザーとモデルナのワクチン3度目の接種を推奨(8/18)

●金融政策

- ・パウエル議長、再任の公算も(来年2月任期)(7/21)
- ・パウエル議長、テーパリングについて「今回の会合で初めて深く掘り下げた議論があった。また、利上げ開始時期はずっと先であることは明白」と発言(7/28)
- ・FOMC、経済は目標に向けて進展、今後の会合でも精査し続けると声明(7/28)
- ・クラリダ FRB 副議長、テーパリングについて年内に発表、2023年には利上げ開始する見通しを示す(8/4)
- ・ウォラーFRB 理事、想定より早期の緩和縮小も可能と発言(8/5)
- ・ブラインダー元 FRB 議長、ゼロ金利解除は来年と予測(8/14)
- ・公表された7月開催の FOMC 議事録によれば、年内のテーパリング開始は適切と大半の参加者が一致(8/18)

●経済指標

- ・中古住宅販売件数:6月は前月比+1.4%の586万戸(予想は590万戸)(7/22)
- ・新築住宅販売件数:6月は前月比▲6.6%の67.6万戸と低水準(7/26)
- ・消費者信頼感指数:7月は129.1と前月の128.9から上昇(予想は123.9)(7/27)
- ・国内総生産(GDP):4-6月速報値は前期比年率+6.5%(7/29)
- ・ISM 製造業総合景況指数:7月は59.5と前月からやや鈍化(予想は61.0)(8/2)
- ・貿易収支:6月は▲757億ドルと赤字額が過去最大に(5月は▲710億ドル)(8/5)
- ・非農業部門雇用者数:7月は前月比+94.3万人と大幅増(予想は+87万人)(8/6)
- ・失業率:7月は5.4%と前月の5.9%から低下(予想5.7%)(8/6)
- ・コアCPI(除食料・エネ):7月は前月比+0.3%(前月は+0.9%)(8/11)
- ・鉱工業生産総合指数:7月は+0.9%(予想は+0.5%)(8/17)
- ・小売売上高:7月は前月比▲1.1%と大幅減(予想は▲0.3%)(8/17)
- ・住宅着工件数:7月は前月比▲7.0%の153万戸(予想は160万戸)(8/18)

(出所:各種新聞、Bloomberg 等)